

長崎大学病院前の渋滞緩和策

問 駐車待ちの解消のため、病院駐車場が増設されると聞いているが、信号の調整など、交通対策についてどのように考えているのか。

答 長崎大学病院周辺においては、外来駐車場台数の不足などによる駐車待ち車両の影響により、外来患者が集中する日の午前中に渋滞が発生している。この渋滞対策として、長崎大学病院では路線バスの乗り入れや無料シャトル便の運行、ライブカメラによる駐車場渋滞情報の提供などを行っているが、地元の方々の強い要望を受け、新たに約200台の立体駐車場を整備する予定となっている。

長崎市としても、駐車場新設による効果を十分発揮できるよう、長崎大学病院や長崎県警と十分な協議を行い、信号機の調整などを含めて、駐車場への円滑な誘導を行い、交通環境の改善に努めたい。

市民クラブ

地域センターの窓口対応と相談業務

問 平成29年10月から、支所・行政センターを含む市役所の組織再編成によ

り新体制に移行したが、その成果や課題、あわせて、市民や職員からはどのような声が上がっているのか伺いたい。

答 市民からは、手続きが近くで済む、相談をしたその日に現場に来てくれたなどの意見をいただいております。困り事にスピーディに対応するといった期待する効果が見えつつある。一方で、窓口が多く場所がわかりにくい、手続きや待ち時間が長いなどの意見もあるため、状況や原因を分析して改善を進めている。

職員からの意見については、庁内で集約して課題解決に努めるとともに、対応方針などを共有しており、窓口業務の端末配置を見直すなど、市民サービスの向上、事務の効率化につなげている。

今後も日ごろから市民や職員の声を聞き、課題をチェックして速やかに対応し、よりよい仕組みを目指していく。

長崎市版DMOの形成・確立

問 これまでの取り組み及び今後の方向性について伺いたい。

答 平成28年度は、日本版DMOの候補法人である長崎国際観光コンベンション協会内にDMO推進本部を立ち上げ、データの収集分析やインバウンド戦略の策定を行った。平成29年度は、民間事業者と連携し、外国人観光客のニーズに適応した旅行商品の構築や観

光情報等を一元的に発信するワンストップサイトの構築などを行った。

今後の方向性としては、長崎市版DMOの喫緊の課題である財源や専門人材の確保について検討するとともに、データに基づくマーケティングや観光地経営等のマネジメント機能の整備など、長崎市版DMOの形成・確立に必要な体制構築に向けた協議を進めていく。

日本版DMO(デスティネーション・マネジメント/マーケティング・オーガニゼーションの略)：多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人

防災行政無線戸別受信機の整備方針

問 防災情報だけでなく、さまざまな生活情報の収集手段としても活用されているが、今後の具体的な整備方針を伺いたい。

答 今後の戸別受信機の貸与のあり方については、防災行政無線のデジタル化へ向けて無償貸与の枠を広げることとしている。具体的には、現在貸与している地域防災のかなめとなる自治会長や消防団分団長に加え、聴覚に障害のある方など災害時の避難に支援が必

要な方や、避難支援が期待される民生委員・児童委員の方々等へ新たに貸与する。また、購入を希望される方には2分の1の助成制度を創設するほか、過去に貸与された方で新たな長崎市の制度では無償貸与の対象とならない方には、補助率を4分の3とする。

あわせて、旧町においては、防災メールにより地域ごとの情報を受信できるようにすることで、戸別受信機の代替えとすることも検討したい。

明政クラブ

ビワの振興策における簡易ハウスの導入

問 寒害対策として簡易ハウス導入への支援を行っているが、導入の実績と今後の計画を伺いたい。また、降雪により簡易ハウスが倒壊する事態が発生したが、今後の対応策を伺いたい。

答 簡易ハウスについては平成24年度から導入を推進し、平成29年度における設置面積は約2.7ヘクタールとなっており、平成34年度までに約6ヘクタールを設置する計画としている。また、ことし1月の降雪により、三和・野母崎地区において約0.5ヘクタールの簡易ハウスが倒壊などの被害を受けたことから、その対応策として、ハウスの補強を含めた仕様の見直しな